

タウンポリス活動実施中



県内では、地域住民による自主防犯組織として、タウンポリス活動が行われています。

地域住民が参加するタウンポリスの見守り活動によって、犯罪を行おうとする者に対して、「見られている、見つかりやすい」環境づくりとなり、犯罪が起きにくい社会づくりに効果を上げています。

写真は、安芸市で活動するタウンポリス『安芸シティポリス』です。

安芸シティポリスでは、毎月2回、少年柔道・空手教室に通う児童たちと一緒に、駅や商店街など、市街地のパトロールを行い、青色パトロールカーによる青色防犯パトロールも合わせて行っています。

安芸シティポリス代表・宮本悟さんは、「多くの方々の協力があって活動が長続きしています。今後も地道に続けていきたいです」と話してくれました。

高知大生による子供見守り活動

高知市朝倉にある高知大学正門前道路は、押しボタン式信号による横断歩道が設置されていますが、大学生のほか、大学の南にある小学校の児童も多く通学し、また、通勤の車や路面電車も通っており、交通量が多い状態です。

このため、押しボタン式信号をきちんと守って交通安全につなげようと、高知大学教育学部の学生たちが、今年10月、ボランティア組織の「高知大学おしぼたんくんプロジェクト」を立ち上げ、通学する児童・学生に、押しボタンを押し、信号を守って横断するよう、安全を呼び掛けました。

また、学生たちは、附属特別支援学校や朝倉小学校を訪れて、自分たちで作った交通安全ポスターを手渡しました。

グループ代表の南静香さんは「信号を守るように呼び掛けたところ、小学生たちからいい返事をもらえ、うれしく思いました」と話してくれました。

